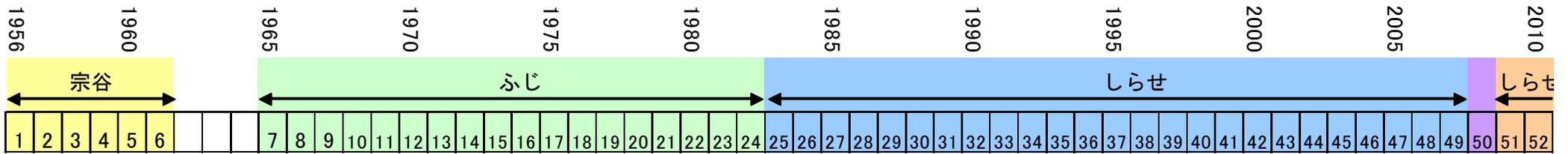


# 南極観測の歴史と主な成果



次隊

第一次観測隊出発・昭和基地開設

やまと山脈初調査



昭和基地再開



南極点到達

ロケット観測成功

みずほ基地開設

国立極地研究所開設



隕石3000個採集



定着氷下海洋生物観測



オゾンホール発見



あすか基地開設

昭和基地・アイスランド オーロラ共役点観測開始

ポーラーパトロール気球打ち上げ成功



超伝導重力計による重力観測開始

ドームふじ基地開設

ドームふじ基地第一期深層掘削、深度2503mに成功

女性隊員初越冬



専用観測船による海洋観測

ドームふじ基地第二期深層掘削、深度3035mに成功



昭和基地開設五十周年

豪観測船オーロラオーストラリスによる代替輸送

新「しらせ」就航

大型大気レーダー(PANSY)稼働開始

# 南極地域観測事業予算（平成16年度～22年度）

## 予算額の推移

【単位：百万円】

区分	平成16年度 (第46次)	平成17年度 (第47次)	平成18年度 (第48次)	平成19年度 (第49次)	平成20年度 (第50次)	平成21年度 (第51次)	平成22年度 (第52次)	計
	～Ⅵ期		Ⅶ期				Ⅷ期～	
	先代「しらせ」				オーロラ・オーストリス	現「しらせ」		
南極地域観測船建造費		3,455	6,726	7,664	9,828	9,954		37,627
航空機購入費	2,593	539	883	3,300	2,588	2,720		12,623
ヘリ1号機	2,593	539	372	2,480				5,984
ヘリ2号機			511	820	2,588	2,720		6,639
南極地域観測事業費	3,087	2,490	2,488	2,805	2,095	3,016	3,510	19,491
海上輸送部門経費 (航空機購入費を除く)	2,696	2,206	2,215	2,539	1,794	2,718	3,215	17,383
観測部門経費	170	162	154	156	207	198	198	1,245
その他	221	122	119	110	95	100	97	864
総計	5,680	6,484	10,097	13,769	14,511	15,690	3,510	69,741

# 「しらせ」及び南極輸送支援ヘリコプターの概要

## 基本概念

エコ・シップ(地球環境に優しい船)、氷海航行性能の向上化、氷海域の海底情報の高密度収集、情報通信システムの近代化(情報化時代への適合)、荷役システムの近代化、積貨能力の向上

### ○南極観測船「しらせ」

区分	性能等
基準排水量	約12,650トン《+1,050》
主要寸法(全長×Lwl×最大幅×Bwl×深さ)	138m《+4》×126m×28m×27m×15.9m
速力	巡航:15kt
機関形式(軸数)	ディーゼル電気推進(2軸) (統合電気推進方式)主機×4機
軸馬力	30,000PS
砕氷能力	連続砕氷航行可能氷厚1.5m
積載能力	越冬隊物資約1,100トン《+100》 (うち燃料約600トン)
環境対策	生活廃水装置1式 固形物廃棄装置1式 二重船こく構造の採用
航空	輸送用大型ヘリコプター (CH-101)2機
乗員	個 艦:約179名《+5》 観測隊員等: 80名《+20》

### ○南極輸送支援ヘリコプター(CH-101)

区分	性能等
機体規模	14.6トン
主要寸法(全長×全幅×全高)(m)	22.8×18.6×6.6
最大速度	150ノット
航続距離	500マイル
空輸能力	物資 約3トンを 約140マイル 往復
機外吊下能力	4.5トン
座席数(トループシート)	最大27



南極観測船「しらせ」



南極輸送支援ヘリコプター

《》は、先代「しらせ」との比較